鎧橋随想

平成不況の功

インター・ホールディングス 代表取締役
飯塚 俊紀

物価が高くて、国民の生活が苦しい、何とか物価を下げて欲しい。政府の無策である等々の言葉が野党やマスコミでさかんに論議されたのは、つい最近であった。そして今日、インフレ待望論さえ出てくる状況になっている。戦後の混乱期を除けば日本経済のここ10年間は経験したことのない大変革期で、進行中でもある。

昨今のデフレ経済は、我が国の構造に起因していると考えられる。バブル経済当時、日本経済の空洞化が心配され、グローバル化に伴う対応の遅れも強く指摘されていたが、先送り的発想で見過ごされていた。その結果が現在の事態を招いたかもしれない。

リストラという文字が毎日賑わすように、企業は再構築に必死に取り組んでいる。その中で日産自動車の改革は、我が国企業の今後の在り方に大きな一石を投げかけたと思う。旧来の日本的経営は、優れた面も多々あったが責任の所在が株式持ち合い等であいまいにされて来た。

平成不況下で企業の社会的責任やコンプライアンスに基づいた収益確保が企業の発展につながるという考え方が主流になった。不況の中で新しい時代への光が点灯している。これが平成不況がもたらした功かもしれない。

歴史の裏表

サントレード代表取締役
粂田 一至

浅田次郎氏の壬生義士伝を読みながら、思い考えさせられる事が多くあります。もう一度歴史を遡ってみようと思います。新撰組の内側から見た中味、外側から見た新撰組、個々の人物像がこうも自分の知識と懸け離れているものかとページを追うごとにショックと興味が交差します。

作家の視点に大きく左右されるのも当然で、おもしろおかしく興味を持たせるようにしているのもしかりでしょうが、参考文献や聞き取り調査等に基づいての内容でしょうから多少の違いはあるにせよ、読む側にこれほど楽しくも有り興味を抱かせる本に久し振りに出会いました。

南部藩、会津藩、水戸藩の台所事情、薩長連合の壬生の狼に対する怨念、池田屋騒動の事実、大政奉還。新撰組の維新の置かれた状態等、一人の壬生義士の生き残りの人物の目を通して、書きつづられています。

私はこの50年、正しい事は世の中に一つ、正義は必ず勝つ、人は一人で生きてはいけぬ、謙虚と想いやりを忘れてはいけないと、先輩諸氏に教えを受けて今まで生かされて来ました。

今後も又そうであると思いますが、物の見方、視点を見誤らないように気を付けて、これからの人生を過ごして生きたいと思います。

我が使命

さくらフューチャーズ常務
倉持 博重

我が使命ある仕事に就けることを祈って入ったのが商品業界でありました。当時の商品業界は、国会問題、社会的問題と最悪の環境でしたが、「公開公設市場である以上、社会になくてはならない仕事」であるということが私の迷いを断ち切ってくれました。

使命を感じたとき勇気と希望が湧き、行動する楽しみが生まれました。失敗は次への発想の課題となり、更なるスキルアップした行動の原動力となりました。行動予定を作る喜び、資料作成の充実、商談の楽しさ、契約の感動等々、能力を出し切っていける素晴らしい仕事との出会い。

結果として、お客様の信頼を頂ける営業マンに育てて頂きました。また、信頼の和は、素晴らしい上司、同僚、部下にと不思議なほど良縁でつながっていきました。

スランプの時、病気で苦しんだとき、必ず支えになって助けていただいたのも、31年間の素晴らしき仕事仲間であり、上司の方々でありました。

今もって、商品取引業界での自分の使命に邁進出来るのも、支えてくれる人々のおかげと、感謝しております。宿命を使命に変えて行くところに人生の喜びがあるとの思いに至る昨今であります。

新人研修

北辰商品専務
沼野 龍男

新入社員研修が始まる季節となった。三十年以上、何らかの形で参画しているが毎回身の引き締る思いがする。

禊（みそぎ）とまでは言わないが、直前の1週間は酒をセーブし、睡眠を十分とるようにしている。これは研修生への礼儀と考えているからである。

新社会人、新組織人への最初のテーマを「自己理解」に置いている。

現在の自分をあるがままに理解しようということである。そのためには、ありのままの自分を思い切って人中で（研修の諸活動の中で）出して行く様に求める。

グループでの実習や、討議において、自分の態度、行動がどうであったかを相互にツールを使って診断し合い、他者に映った自分を受容する努力を重ねていくのである。

自己の棚卸しでは、自分の過去を一本の線で表現し、現在時点から未来へと想像して延長してもらう。大きな山や谷が表される。

平坦なものは少ない。現在時点や未来線が必ずしも右肩上りばかりではない。

お互いの人生曲線を見せ合い、山や谷を語り聴き合う。真剣な雰囲気が漂い、私は責任の重さを痛感する。永い初日が続いていく。

拝見・囲碁クラブ、石心会
2級から12段まで多士済々

石心会例会風景

毎月第1、第3水曜日の午後5時すぎ、東穀取3階の会議室に、三三五五、50歳台以上の身なりのいい紳士たちが集まってくる。

すぐに相手を決めて碁盤に向かい、鳥鷺の争いを始める。手元には期日、対戦相手、勝敗を記した記録帳を置き、持ち点を競い合う。ウイスキー水割りの紙コップを盤側に引きつけている人もちらほら。

午後8時まで、あまり話もしないで盤面に集中して時を過ごす。商品先物業界関係者の囲碁クラブ、石心会の例会風景（＝写真＝）である。

石心会が発足したのは昭和61年（1986年）3月。商品取引員、取引所、関連団体、マスコミの囲碁好き23名でスタートした。それから17年間、棋譜を重ねてきたが、会長は昔も今も豊商事会長の多々良義成3段。

当初からの会員で永く幹事を務めている東京穀物市況調査会・元専務理事の榎本修二さんは、「会長は3～4年前から、『もうやめさせて』と言っていますが、何かと都合がいいので、やめさせない」と笑っている。

現在の会員は34名。年会費6、000円。毎月の例会出席者は平均7～8名で、年2回催している総当たり制の大会には10数名が参加する。持ち点、大会成績などで決める会員の腕は、2級から12段までの〝大差〟がある。12段というのはほかでは聞いたことがないが、この会の先生である本間繁夫さんの段位。

アマの東京大会で優勝したこともある強剛で、他の会員との力の差（置石1子で1段の差）から11段となったが、8年前に大会で優勝して12段に昇段した。最近の成長株は丸梅社長の乙守哲郎8段。4年前に5段で優勝。その後、準優勝を続け、今年2月の大会で全勝優勝して8段に。

榎本さんは、「一線を退かれた会員が多くなっていますが、末永く続くよう会の面倒をみていきたい」と、いつまでも世話役を務めるつもりだ。

元東穀取理事
榎本 修二

電力、排出権などの上場目指す
濱田東工取専務が記念講演

濱田氏の講演会風景

電力自由化とエネルギー問題の展示会「パワー・マート&トレード・エキスポ2003」が3月27日、28日の2日間、東京国際フォーラムで開かれた。日本初のトレードショーで主催は経済産業省、総務省、環境省、農林水産省など。

この催しを記念して27日、東京工業品取引所の濱田隆道専務理事が「自由化の進展するエネルギー市場における先物取引の重要性」と題して講演した。この中で同氏は「自由化が進展するエネルギー市場で、イラク情勢の緊迫化など価格変動リスクが顕在化し、リスクヘッジ機能を提供する先物市場の役割がますます重要になってきた」と強調した。

さらに「今後、規制緩和が進展するであろう電力・ガス市場への新たな事態にどう対処すべきか。これから皆様とともに勉強していきたい。また、東工取の今後の取り組みとして、軽油、電力、排出権、天候デリバティブといった新しい商品の上場に向けて努力したい」と語った。

◆事務局だより◆

当先物協会と東穀取、東工取の3団体で寄附講座の開設により支援しております青山学院大学大学院国際マネジメント研究科における聴講生（春学期）の募集について案内いたしましたところ、十数名のご応募をいただきました。秋学期においても若干名ですが募集する予定でおります。9月頃ご案内いたしますので、今回応募を見合わせた会員でご希望の方はご予定下さい。

証言・戦後先物史
福岡商品取引所の戦略（下）

福岡商品取引所理事長　中村 光弘

最近の中村理事長

新規上場

――地方の取引所は東京への取引集中で、苦しい状況に陥っています。

中村　福岡商品取引所も例外ではありません。それだけに、着々と対策を練っています。その大きな柱が九州に合った商品の上場です。九州は日本の畜産基地であり、それにマッチした商品の上場を心がけています。まず、トウモロコシを上場しましたが、それも畜産物の飼料として、地元のニーズがあると考えたからです。

――他は、どのような商品を上場なさいましたか。

中村　1999年はブロイラーを試験上場、2000年にNon-GMO大豆を、2002年、大豆ミールを試験上場しました。

――上場後の経過はどうですか。

中村　ブロイラーは受渡時の品質問題でつまずきましたが、現在は検査員を充実、そのようなことが絶対起こらないようにしています。受渡時の品質を向上させることで「安ければ福岡商取で荷を受ける」という新たな役割も果たせると思っています。事実、最近もブロイラーの受渡は多いですよ。大豆ミールは一般にあまり知られていないせいか、いまひとつです。

――上場商品を拡充するお考えは。

中村　アジア産の米など上場できればと考え、目下、研究を進めています。

――最近、福岡商取の出来高はいまひとつです。

中村　ブロイラーは幸い、試験上場期間が3年延長されました。価格の動きも大きく、商品取引員の方がお客様に安心して推奨できるように育てていきたいと思っています。このような、東京にはなく、九州の特徴を出した形、つまり「畜産基地九州を背景にアジアの資金も取り込める」形にしたいと思っています。

――下関はどうなっていますか。

中村　取引所は敷地が市の所有で、建物は地元の砂糖組合の所有でしたが、取引所の建物は取り壊し、現在、市の駐車場になっています。ただ、本部は海峡メッセビルの5階に置いています。下関は発祥の地であり、当取引所を大事にしてくれたからです。（おわり）